

(社)日本原子力学会 標準委員会 基盤・応用技術専門部会
第4回 有効高さ評価モデル分科会 (A1SC4) 議事録(案)

1.日時 2009年6月26日(金) 14:00～16:30

2.場所 (財)電力中央研究所 大手町ビル7階 第4会議室

3.出席者(順不同, 敬称略)

(出席委員) 北林(主査), 市川(副主査), 込山(幹事), 安達, 近藤, 山澤, 日高, 永井_(晴),
舘野, 大場, 永井_(清), 筑紫, 佐田, 福田, 鈴木, 沼田, 安田 (17名)

(代理委員) なし

(欠席委員) なし

(常時参加者) なし

(傍聴者) 樋口 (1名)

4.配布資料

A1SC4-1 前回議事録 (案)

A1SC4-2 有効高さの評価に用いる数値シミュレーションモデルの検証方法について

A1SC4-3 安全解析のための大気拡散解析手法ー排ガス拡散の数値計算手法の例ー (回収)

A1SC4-4 シミュレーションの信頼性検討タスクについて (案)

5.議事録

(1)出席委員の確認

込山幹事により 17 名の委員中、17 名の委員の出席があり、定足数(12 名以上)を満足していることが確認された。

(2)前回議事録の確認

込山幹事より A1SC4-1 に基づき第 3 回有効高さ評価モデル分科会議事録(案)が説明され、コメントが無く了承された。

(3)数値モデルの選択基準について

沼田委員及び大場委員より A1SC4-2 に基づき、有効高さの評価に用いる数値シミュレーションモデルの検証方法について、次の提案があった。

- ・ 検証方法は第一段階と第二段階に分けて実施する。
- ・ 第一段階：小規模領域の風洞実験結果の検証による基本性能の確認。評価基準は、EU 基準 (COST732) を適用する。
- ・ 第二段階：放出源の有効高さで計算した線量評価用相対濃度の検証による実用性の確認。評価基準は、窒素酸化物総量規制マニュアルの数値シミュレーションモデル評価基準の A ランク①&④を適用する。

検証方法について以下の課題が挙げられ、再検討することとした。

- ・ 第一段階評価において、乱流の確認について必要性を含め検討すること。
- ・ EU 標準 (COST732) の適用事例を確認すること。
- ・ 窒素酸化物総量規制マニュアルの考え方 (母集団の数等) を整理し、相対濃度の検証に利用することの妥当性を検討すること。

(4)シミュレーションの信頼性検討タスクについて

佐田委員より A1SC4-4 に基づき、基盤・応用技術専門部会 シミュレーションの信頼性検討タスクの活動状況について紹介があった。

タスクはこれまでに 2 回開催されており、シミュレーションの信頼性に関する現状、ガイドラインに対するニーズ、海外を含めた他学会や組織の動向等を調査し、ガイドラインを作成するかどうかについて、専門部会に答申することを目的としている。

(5)その他・今後の予定

今回予定していた「数値モデルの仕様指定」に係る議論は次回とする。

次回第 5 回分科会を 9 月 4 日(金)に開催することとした。

以 上